

大田区自立支援協議会だより

編集・発行 大田区自立支援協議会
事務局 大田区福祉部障害福祉課障害者支援担当（計画）
電話 03 (5744) 1700
ファックス 03 (5744) 1592

第7号 平成26年11月

「大田区自立支援協議会」は、障がい者及び障がい児の地域における自立した生活を支援するため、相談支援事業をはじめ、地域の障がい福祉の課題について具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。協議会委員は、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者で構成しています。

●「運営会議」の現況と今後の展望について

東京福祉大学 社会福祉学部 専任講師 白井 絵里子

食欲の秋ということで、自立支援協議会を地域のレストランに例えて上記のテーマについて考えてみたいと思います。

自立支援協議会には「全体会」の他に「専門部会」、「運営会議」などが置かれています。

「専門部会」では、それぞれ調理素材や方法が研究されており、たとえば私が参加している地域資源評価開発部会では、安全な食材（社会福祉施設やサービス提供者）から美味しい料理（障がいのある人を支える福祉サービスやしくみ、）を提供できるようにするための方策が検討されています。

「運営会議」では、これまでは主に新メニュー（各専門部会に属さない課題）や協議会の運営全般に関することについて検討されてきましたが、今年度からそのメニューを試食し、より吟味する（課題について参加者が討論する）ため、開催回数を増やすとともに運営会議準備会が加わりました。ご多忙のところ、精力的に取り組まれている準備会のみなさまには敬服します。

“試食会”で多様な意見が積極的に交わされることにより、個人の課題を地域の課題へと普遍化するプロセスが活性化されていくこと、課題に対する多面的なアプローチが可能になることが期待されます。



●次期計画の策定について

福祉部障害福祉課障害者支援担当係長（計画） 井村 陽介

「障がい者が地域で安心して暮らせるまちをつくります」

これは、大田区の基本計画「おおた未来プラン10年（後期）」に定めた、区が目指す障がい者施策の目標です。

この目標の実現のために、大田区では現在、平成27～29年度の3か年を計画年度として、「大田区障害者計画」と「第4期大田区障害福祉計画」の一体計画の策定に取り組んでいます。

計画策定にあたっては、志村会長をはじめ、大田区自立支援協議会の副会長、部会長等の皆様に検討委員会へのご参画をいただいている他、各部会等からも、活発なご意見をいただいているところです。

本年4月の着任より、自立支援協議会の皆様のご協力の下、時には厳しいご意見をいただきながらも、担当の係長として、一つひとつの課題を検討してまいりました。

計画策定に向けては、これからが正念場となります。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。



矢口地区総合防災訓練の報告

日時 平成26年9月28日(日)
16:00～19:00まで

会場 古市町会、
アルス多摩川自治会、
桂川精螺製作所など

参加者 500名 うち 部会委員6名



- 今年度は「地域とマンション居住者の連携」をテーマに実施。地域と周辺マンションや企業との連携を深めた。
- 部会委員は災害時要援護者の避難誘導訓練や企業内や周辺における煙体験や仮設トイレの展示など各種体験・展示訓練などに参加。
- 同時に、自立支援協議会では参加者にヘルプカードとチラシを配布。

都立矢口特別支援学校福祉避難所開設準備訓練の報告

日時 平成26年8月26日(火)9:00～10:25まで
詳細はホームページをご覧ください。「都立矢口特別支援学校」で検索!

<http://www.yaguchi-sh.metro.tokyo.jp/cms/html/entry/287/1.html>



都立北療育医療センター城南分園見学会について

日時 平成26年9月1日(月)
10:00～12:30まで

参加者 20名うち 部会委員 11名 区職員 9名

- 利用者1日18名。27名登録あり。大田区、港区、品川区在住の方が利用。大田区が20名と最多。
- 利用者本人の活動の場であり、支援者（家族）のレスパイトにもなる。
- 施設内の設備が比較的充実している。（温水プール、広い浴室など）
- 人の活動の場であり、支援者（家族）のレスパイトにもなる。

大田区公式ホームページ内に大田区自立支援協議会ページあります。
協議会内の各専門部会の議事録の掲載を始めました。

<http://www.city.ota.tokyo.jp/> 「大田区自立支援協議会」で検索!!

「障がい者総合サポートセンター」 の愛称が決定しました! ～愛称は「さぽーとぴあ」です!～

障がいのある人にとって必要なさまざまなサポートをする施設であるとともに、仲間を表す「ぴあ」という言葉を組み合わせることで、たくさんの出会いとつながりと希望があらわれるセンターであってほしいという願いが込められています。
お友達との会話の中でぜひ「さぽーとぴあ」と呼んでみては♪

【編集後記】

行政・地域・特別支援学校が連携した防災訓練を、今後も行いたいと思います。（K）

つながる協議会ネットワーク

